

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	トレーナー理論 I		
必修選択	必修	(学則表記)	トレーナー理論 I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年次	学科	鍼灸科 昼間部		4
使用教材	トレーニング指導者テキスト【理論編】改訂版 認定トレーニング指導者模擬問題集改訂版		出版社	大修館書店	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	トレーニング指導を行う上で必要な機能解剖学、運動生理学、スポーツ栄養、バイオメカニクス、救急処置法、整形外科、生活習慣病の基礎知識を学ぶ。				
到達目標	トレーニング指導を行う上で必要な機能解剖学、運動生理学、スポーツ栄養、バイオメカニクス、救急処置法、整形外科、生活習慣病の基礎知識を説明できる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	J A T I 認定トレーニング指導者 ( J A T I - A T I )				
関連科目	トレーナー実践 I、トレーナー実技 I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	平間 康允	実務経験	○		
実務内容	北海道内の高校野球部でのトレーニング指導を行っている。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	1 章 体力学総論	体力の概念、体力の要素と体力モデル
2	1 章 体力学総論	体力の個人特性、一般的体力と専門的体力、体力トレーニング
3	2 章 機能解剖 1 節 上肢	上肢の骨、関節、筋肉、神経と血管
4	2 章 機能解剖 2 節 上肢	上肢の骨、関節、筋肉、神経と血管
5	2 章 機能解剖 2 節 脊柱と胸郭	脊柱の基本構造、骨、関節、筋肉

6	2章 機能解剖 2節 脊柱と胸郭	脊柱の基本構造、骨、関節、筋肉
7	2章 機能解剖 3節 下肢	関節の運動を表す用語、下肢の骨、関節、筋肉、神経と動脈
8	2章 機能解剖 3節 下肢	関節の運動を表す用語、下肢の骨、関節、筋肉、神経と動脈
9	1章～2章のまとめ	理解度確認小テスト
10	3章 バイオメカニクス 1節 バイオメカニクスの基礎理論	運動の記述、分析
11	3章 バイオメカニクス 1節 バイオメカニクスの基礎理論	スポーツ動作（歩動作、走動作、跳動作、投動作）
12	3章 バイオメカニクス 1節 バイオメカニクスの基礎理論	スポーツ動作（打動作、蹴動作、滑走動作、泳動作）
13	3章 バイオメカニクス 1節 バイオメカニクスの基礎理論	トレーニング動作（ローイング動作、ペダリング動作、上肢の動作、下肢の動作）
14	1章～3章のまとめ、復習	試験前対策
15	総括	試験後解説
16	4章 1節：呼吸循環系・エネルギー代謝と運動	呼吸循環系の基礎的情報、運動と呼吸循環系
17	4章 1節：呼吸循環系・エネルギー代謝と運動	トレーニングと呼吸循環系、エネルギー代謝の基礎的情報、運動とエネルギー代謝、トレーニングとエネルギー代謝
18	4章 1節：呼吸循環系・エネルギー代謝と運動	トレーニングと呼吸循環系、エネルギー代謝の基礎的情報、運動とエネルギー代謝、トレーニングとエネルギー代謝
19	4章 運動生理学 2節 骨格筋系、神経系、内分泌系と運動	骨格筋の形態と機能、筋力発揮のメカニズム
20	4章 運動生理学 2節 骨格筋系、神経系、内分泌系と運動	筋・神経系に対するトレーニング効果、主な内分泌系とホルモン、身体機能へのホルモンの作用、筋肥大におけるホルモンの役割、レジスタンストレーニングとホルモン分泌
21	4章のまとめ、復習	理解度確認小テスト
22	5章 運動と栄養 1節 運動と栄養に関する基礎理論	五大栄養素の役割

23	5 章 運動と栄養 1 節 運動と栄養に関する基礎理論	身体組成とエネルギー代謝、スポーツ栄養マネジメント
24	5 章 運動と栄養 2 節 スポーツ選手の競技力向上と栄養	種目特性の分類と食事、トレーニングスケジュールと食事、グリコーゲン補給と回復のための食事
25	5 章 運動と栄養 2 節 スポーツ選手の競技力向上と栄養	水分補給、栄養・食事計画の立案、目的別の食事管理、栄養サポートと栄養教育の実践
26	7 章 運動と医学 1 節 救急処置法	外傷の応急処置（皮膚などに傷の無いケガの処置）
27	7 章 運動と医学 1 節 救急処置法	創傷の応急処置（皮膚などに傷のあるケガの処置）、緊急時の一次救命処置（BLS）
28	7 章 運動と医学 2 節 スポーツ選手の整形外科的傷害と予防	スポーツ傷害とは、足部・足関節の傷害、下腿部の傷害、膝関節の傷害
29	7 章 運動と医学 2 節 スポーツ選手の整形外科的傷害と予防	大腿部の傷害、腰部の傷害、肩関節の傷害、肘関節の傷害、手関節の傷害
30	7 章 運動と医学 3 節 生活習慣病とその予防	生活習慣病予防と身体活動・運動、肥満
31	7 章 運動と医学 3 節 生活習慣病とその予防	糖尿病、脂質異常症、高血圧症
32	総括	試験後解説

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	トレーナー実践 I		
必修選択	必修	(学則表記)	トレーナー実践 I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年次	学科	鍼灸科 昼間部		64
使用教材	トレーニング指導者テキスト【理論編】改訂版 認定トレーニング指導者模擬問題集改訂版		出版社	大修館書店	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	・筋力トレーニング、パワー、持久力、スピード、柔軟性向上トレーニング、特別な対象者へのトレーニング、傷害の受傷から復帰までのトレーニングに関する知識の習得および、原理・原則に則したトレーニングプログラムの作成手順を理解できるようになること。				
到達目標	・筋力トレーニング、パワー、持久力、スピード、柔軟性向上トレーニング、特別な対象者へのトレーニング、傷害の受傷から復帰までのトレーニングに関する知識の習得および、原理・原則に則したトレーニングプログラムの作成手を理解ができるようになること。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	・JATI認定トレーニング指導者(JATI-ATI)・はり師・きゅう師				
関連科目	トレーナー理論 I、トレーナー実技 I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	阿部 修久	実務経験	○		
実務内容	(株)ABC Supporter 代表取締役 / 健康運動指導士・鍼灸師・中高一種教諭(保健体育)・JATI-ATI・CSCS 等/ 高校の部活動でトレーニング指導やコンディショニング指導を行うトレーナーであり、パーソナルトレーナーとしても活動している。また鍼灸師でもあり治療技術も持つトレーナーである。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	日本トレーニング指導者協会について 1章：トレーニング指導者論	資格の種類、資格の対象、取得方法、上位資格の取得方法、運動療法について、トレーニング指導者とは、国内のトレーニング指導者に対するニーズ、トレーニング指導者の役割と業務
2	1章1節：トレーニング指導者の役割	競技スポーツ分野における状況に応じた活動、トレーニング指導者の資質、身につけるべき能力、行動と倫理
3	2章1節：トレーニング計画の立案(総論)	トレーニングとは、トレーニングの原理と原則、トレーニング計画の立案

4	2 章 2 節：トレーニング計画の立案（総論）	ピリオダイゼーション
5	2 節：筋力トレーニングのプログラム作成	筋力トレーニングの効果、筋力トレーニングのプログラムの条件設定①
6	3 節：筋力トレーニングのプログラム作成	筋力トレーニングのプログラムの条件設定②
7	4 節：筋力トレーニングのプログラム作成	筋力トレーニングのプログラムの条件設定③
8	5 節：筋力トレーニングのプログラム作成	筋力トレーニングのプログラムの条件設定④
9	6 節：筋力トレーニングのプログラム作成	筋力トレーニングのプログラムの条件設定⑤
10	2 章、1 節、2 節 まとめ	復習、小テスト
11	2 章 3 節：パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成	パワーの基本概念、スポーツや日常生活動作におけるパワー、短時間に大きな力を発揮する能力、パワーに類似する用語、パワー発揮様式の種類
12	2 章 4 節：パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成	パワーの測定と評価、パワー向上トレーニングのプログラム戦略、トレーニングプログラム変数
13	2 章 5 節：パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成	トレーニングプログラム変数②、反動動作における生理学的基礎
14	2 章 6 節：パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成	反動動作における生理学的基礎、プライオメトリクスプログラムのプログラム変数、パワー向上トレーニングの長期的な計画、フィットネス分野におけるパワートレーニング
15	前期：まとめ	試験前対策
16	前期：まとめ	試験後解説、まとめ
17	2 章 4 節：持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成	持久力に関する基礎理論、有酸素性持久力向上トレーニングに対する基本的な適応
18	2 章 5 節：持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成	有酸素性持久力向上トレーニングに対する基本的な適応、無酸素性持久力向上トレーニングに対する基本的な適応
19	2 章 6 節：持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成	持久力向上トレーニングのプログラム作成の基本、持久力向上トレーニングのプログラム作成の実際
20	2 章 5 節：スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成	スピード・アジリティ、スピードを向上させる要因、基礎筋力・最大筋力・パワーの向上、コアの重要性
21	2 章 6 節：スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成	スピードにおける動作テクニックの獲得、アジリティの強化、オープンスキルアジリティの強化、スピード・アジリティトレーニングのプログラムデザイン、トレーニング変数、まとめ
22	2 章 4 節～5 節 まとめ	復習、小テスト

23	2 章 6 節：柔軟性向上トレーニング及びウォームアップとクールダウンの理論とプログラム作成	柔軟性向上のトレーニング、ストレッチング
24	2 章 7 節：柔軟性向上トレーニング及びウォームアップとクールダウンの理論とプログラム作成	ウォームアップとクールダウン、ストレッチング実技
25	2 章 7 節：特別な対象のためのトレーニングプログラム	メタボリックシンドロームに対するトレーニングプログラム、高齢者に対するトレーニングプログラム
26	2 章 7 節：特別な対象のためのトレーニングプログラム	妊婦に対するトレーニングプログラム、子どもに対するトレーニングプログラム
27	2 章 8 節：傷害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム作成	アスレティックリハビリテーション概論、アスリハにおける評価の流れ
28	2 章 9 節：傷害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム作成	アスリハのプログラム作成の実際、まとめ
29	2 章 6 節～8 節：まとめ	復習、小テスト
30	練習問題	練習問題、解説
31	後期：まとめ	試験対策
32	後期：まとめ	試験後解説、まとめ

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	トレーナー実技 I		
必修選択	必修	(学則表記)	トレーナー実技 I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年次	学科	鍼灸科 昼間部	2	64
使用教材	トレーニング指導者テキスト【理論編】改訂版 認定トレーニング指導者模擬問題集改訂版		出版社	大修館書店	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	基礎的なレジスタンストレーニングの適切なデモンストレーション技能を習得する。 基礎的なテーピングテクニックを習得する。				
到達目標	基礎的なレジスタンストレーニングの適切なデモンストレーション技能を実践できる。 基礎的なテーピングテクニックを実践できる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	はり師・きゅう師、J A T I 認定トレーニング指導者 ( J A T I - A T I )				
関連科目	トレーナー理論 I、トレーナー実践 I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	木下 美来	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	筋力トレーニングの基礎知識と自重トレーニング	動作スピード、呼吸法、バーの握り方、自重トレーニング
2	マシントレーニング実践①	上肢のトレーニングマシンの使い方、実践
3	マシントレーニング実践①	上肢のトレーニングマシンの使い方、実践
4	マシントレーニング実践②	下肢のトレーニングマシンの使い方、実践
5	マシントレーニング実践②	下肢のトレーニングマシンの使い方、実践

6	B i g 3 のテクニック習得と実践 ①ベンチプレス	動作スピード、呼吸法、バーの握り方、ベンチプレス、補助法
7	B i g 4 のテクニック習得と実践 ①ベンチプレス	動作スピード、呼吸法、バーの握り方、ベンチプレス、補助法
8	B i g 3 のテクニック習得と実践 ② バックスクワット	ベルトの使用、バックスクワット、補助法
9	B i g 4 のテクニック習得と実践 ② バックスクワット	ベルトの使用、バックスクワット、補助法
10	B i g 3 のテクニック習得と実践 ③デッドリフト	ストラップの使用、デッドリフト
11	B i g 4 のテクニック習得と実践 ③デッドリフト	ストラップの使用、デッドリフト
12	実技試験①	実技試験①
13	胸部のトレーニング	インクラインベンチプレス、ダンベルベンチプレス、ディッピング
14	背部のトレーニング	ベントオーバーロウ、ワンハンドダンベルロウ、チンニング、シーティッドロウ、ダンベルプルオーバー
15	肩部のトレーニング	バーベルショルダープレス、アップライトロウ、ショルダーシュラッグ
16	肩部のトレーニング	サイドレイズ、フロントレイズ、ローテーターカフトレーニング
17	腕部のトレーニング①	バーベルカール、コンセントレーションカール、プリチャーカール
18	腕部のトレーニング②	ライニングトライセプスエクステンション、トライセプスプレスダウン、ワンハンドフレンチプレス、トライセプスキックバック
19	大腿部、殿部のトレーニング	ワイドスタンススクワット、スプリットスクワット
20	大腿部、殿部のトレーニング	グッドモーニングエクササイズ、スティフレッグドデッドリフト、ワイドスタンスデッドリフト
21	大腿部、殿部のトレーニング	フォワードランジ、バックワードランジ、サイドランジ
22	実技試験②	実技試験②
23	テーピング①(オリエンテーション)	ガイダンス、用具の説明、テープカット練習



24	テーピング②(基礎実技)	テープカット練習、足置き台作成
25	テーピング③(足関節内反捻挫テーピング※1)	アンダーラップ
26	テーピング③(足関節内反捻挫テーピング※2)	アンカーテープ、スターアップ、ホースシュー
27	テーピング③(足関節内反捻挫テーピング※3)	サーキュラー
28	テーピング③(足関節内反捻挫テーピング※4)	ヒールロック、フィギュア 8
29	テーピング③(足関節内反捻挫テーピング※5)	タイムテスト※1 補足(バスケットウィーブ)⇒柔整科は国試対策のため必須
30	テーピング④(膝関節テーピング： ACL・MCL※2)	アンダーラップ、アンカーテープ、Xテープ、スパイラルテープ、スプリットテープ
31	テーピング④(膝関節テーピング： ACL・MCL※3)	タイムテスト※2 補足(膝関節内側 X テープ)⇒柔整科は国試対策のため必須
32	総括	授業まとめ

## シラバス

### 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラム		
必修選択	必修	(学則表記)	未来デザインプログラム		
開講				単位数	時間数
年次	1 年次	学科	鍼灸科 昼間部		2
使用教材	7つの習慣」テキスト、夢のスケッチブック		出版社		

### 科目の基礎情報②

授業のねらい	三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」を体現する為の授業として、7つの習慣を体系的に学ぶことで、社会人／職業人としてあるべき人格を高め、主体性を発揮して物事にチャレンジできる人材に成長する				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自立」と「相互依存」のためにはどんな考え方や行動習慣が必要なのかを理解する</li> <li>・他者へのリーダーシップを醸成し、主体性を発揮できる様になる</li> </ul>				
評価基準	小テスト／レポート：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	なし				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	茶谷 裕太	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

### 各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	未来デザインプログラム授業への価値付けを行い、日誌を書くことの意味や今日から実行できる機会を考える
2	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの概念を知り、自分制限パラダイムを取り払った状態で行動が継続できる様に考える
3	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解すると共に、自分自身への約束を守る大切さを学ぶ
4	刺激と反応	刺激と反応の考え方を理解し、どのような状況でも一時停止ボタンを使い主体的に判断・行動していくことの大切さを考える
5	言霊 ～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ
6	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にし、今自分がやるべき事、考えるべき事を優先順位を考えながら整理していく大切さを学ぶ

7	選んだ道と選ばなかった道	自分の選択は自分の気持ち次第であり、自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ
8	割れた窓の理論	規則を守る大切さ、重要性を理解する
9	人生のビジョン	10年後のなりたい自分を考えることにより、入学時に考えた「卒業時の姿」をより具体的に考える
10	自分の価値観を知る	なりたい姿を鮮明にすることの大切さを知り、自分の価値観を深掘りすることで、将来のなりたい姿を具体的にイメージできるプロセスを学ぶ
11	大切なこととは？	なりたい自分になるために優先すべき「大切なこと」は、夢の実現や目標達成に直接関係することだけではなく、間接的に必要なこともあることを学ぶ
12	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ。自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
13	時間管理のマトリクス	第2領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
14	私的成功の振り返り	主に私的成功の習慣（前期授業内容）の復習（知識確認）
15	リーダーシップを発揮する	リーダーシップを発揮するためには、「主体性」が問われることを学ぶ
16	諦めない気持ち	夢を追い続ける大切さ、諦めない気持ちを学ぶ
17	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
18	Win-Win を考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
19	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
20	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、理解してから理解するという考え方があるということを知る
21	相乗効果を発揮する	多様性や人と違いがあることに価値があることを学ぶ
22	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える
23	未来は大きく変えられる	人生は選択の連続あり、未来は自分の選択次第であることを学ぶ
24	人生ビジョンを見直そう	自らが立てたライフプランを現実的な視点から見つめ、必要な軌道修正を考える
25	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高めていく

26	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
27	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
28	7つの習慣授業の復習	7つの習慣の関連性を学ぶとともに、私的成功が公的成功に先立つことを理解する
29	未来デザインプログラムの振り返り	7つの習慣など、未来デザインプログラム授業で学んだことの復習（知識確認）
30	2年生に向けて①	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える
31	2年生に向けて②	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える
32	夢	夢の大切さを学ぶ

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	解剖学 I		
必修選択	必修	(学則表記)	解剖学 I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年次	学科	鍼灸科 昼間部	4	64
使用教材	解剖学 第 2 版		出版社	医歯薬出版株式会社	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	現代医学の基礎となる解剖学を学び、人体の構成に関する基礎知識を習得する。				
到達目標	<p>人体の構造について説明できる。</p> <p>解剖学の知識を身につけ鍼灸施術に結び付けることができる。</p> <p>解剖学の知識を身につけ人体の構造を理解し安全に鍼灸施術ができる。</p>				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	<p>出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者</p> <p>成績評価が 3 以上の者</p>				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目	解剖学 II				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	岩井 李恩	実務経験	○		
実務内容	学校付属鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	総論 (骨格系)	骨の形状、骨の連結・関節の種類
2	総論 (筋系)	筋の付着、筋の形・筋の神経、筋の補助装置、筋の作用と運動
3	脊柱	脊柱の構成・各部の椎骨・脊柱の湾曲
4	胸郭	胸骨、肋骨、胸郭の全体像と運動
5	上肢の骨格	上肢体の骨・自由上肢の骨・上肢の関節

6	下肢の骨格	下肢帯の骨・自由下肢の骨・下肢の関節
7	頭蓋骨	頭蓋骨の成り立ち・脳頭蓋をつくる骨
8	頭蓋骨	顔面頭蓋をつくる骨、頭部の関節、顎関節
9	体幹の筋	胸筋・腹筋・会陰筋、背筋
10	体幹の運動	体幹の前屈、後屈・体幹の回旋、呼吸運動
11	体幹の局所解剖	胸部、腹部・会陰、背部
12	体幹の神経	体幹の神経
13	上肢の筋	上肢帯の筋・上腕の筋
14	上肢の筋	前腕の筋・手の筋
15	上肢の運動	肩関節、肘関節の運動
16	前期末試験の解答と解説	解答と解説
17	上肢の局所解剖	上肢の局所解剖
18	上肢の神経	上肢の神経
19	下肢の筋	下肢帯の筋・大腿の筋・下腿の筋・足の筋
20	下肢の運動	股関節、膝関節、足、足指の運動
21	下肢の局所解剖	殿部・大腿・膝窩・下腿の筋区画（コンパートメント）・足部
22	下肢の神経	下肢の神経
23	神経系	神経系の構成・中枢神経系
24	神経系	中枢神経系

25	神経系	中枢神経系・伝導路
26	神経系	伝導路・末梢神経系
27	頭頸部	頭部の筋・頸部の筋
28	頭頸部の体表および局所解剖	頭部・頸部
29	頭頸部の末梢神経	脳神経、皮神経、頸神経、自律神経
30	感覚器系	視覚器・平衡聴覚器
31	感覚器系	味覚器・嗅覚器
32	総括	解答と解説

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	解剖学 II		
必修選択	必修	(学則表記)	解剖学 II		
開講				単位数	時間数
年次	1 年次	学科	鍼灸科 昼間部	4	64
使用教材	解剖学 第 2 版		出版社	医歯薬出版株式会社	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	現代医学の基礎となる解剖学を学び、人体の構成に関する基礎知識を習得する。				
到達目標	<p>人体の構造について説明できる。</p> <p>解剖学の知識を身につけ鍼灸施術に結び付けることができる。</p> <p>解剖学の知識を身につけ人体の構造を理解し安全に鍼灸施術ができる。</p>				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	<p>出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者</p> <p>成績評価が 3 以上の者</p>				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目	解剖学 I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	村田 清貴	実務経験	○		
実務内容	千歳むらた鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	人体の構成	細胞・組織・体表構造（皮膚）・人体の区分と方向
2	人体の構成	体表構造（皮膚）
3	人体の構成	人体の区分と方向
4	循環器系	血管系
5	循環器系	心臓



6	循環器系	動脈系・静脈系
7	循環器系	胎児循環・リンパ系
8	呼吸器系	鼻腔、副鼻腔・咽頭・喉頭
9	呼吸器系	咽頭・喉頭
10	呼吸器系	気管と気管支・肺
11	消化器系	消化管の基本構造
12	消化器系	口腔・咽頭
13	消化器系	食道・胃
14	消化器系	小腸・大腸
15	前期末試験前の統括	授業のまとめ
16	前期末試験の解答と解説	解答と解説
17	消化器系	肝臓・胆嚢
18	消化器系	膵臓・腹膜
19	泌尿器系	腎臓・尿路
20	生殖器系	男性生殖器
21	生殖器系	女性生殖器・受精と発生
22	内分泌系	下垂体・松果体
23	内分泌系	甲状腺・上皮小体
24	内分泌系	副腎・膵腺・性腺

25	体幹の脈管	動脈・静脈・リンパ
26	頭頸部の脈管	頭頸部の動脈・頭頸部の静脈・頭頸部のリンパ系
27	上肢の脈管、神経	上肢の動脈、静脈、リンパ、神経
28	下肢の脈管	下肢の動脈・下肢の静脈・リンパ
29	全身の体表触察	上肢帯、上肢部の筋肉、骨などの触察
30	全身の体表触察	下肢帯、下肢部の筋肉、骨などの触察。体幹部の触察
31	後期末試験前の統括	授業のまとめ
32	総括	解答と解説

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	生理学 I		
必修選択	必修	(学則表記)	生理学 I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年次	学科	鍼灸科 昼間部	8	128
使用教材	生理学 第 3 版		出版社	医歯薬出版株式会社	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	現代医学の基礎となる生理機能を学び、正常状態での生体の機能を習得する。				
到達目標	正常な人体の生理機能について説明できる				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	はり師・きゅう師				
関連科目	生理学 II				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	古川 茂、岩井 李恩	実務経験	○		
実務内容	学校付属鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション、生理学の基礎	授業の流れ、到達目標について、生理機能の特徴、細胞の構造と機能
2	生理学の基礎	物質代謝、体液の組成と働き、物質移動
3	循環	血液の組成と働き、止血
4	循環	線維素溶解・血液型
5	循環	心臓血管系・心臓の構造と働き
6	循環	血液循環

7	代謝	食品・栄養素、代謝
8	代謝	各栄養素の働きと代謝
9	体温	体温調節、体熱の産生と放散
10	体温	発汗とその調節、体温調節の障害
11	排泄	腎臓の働き
12	排泄	腎循環
13	内分泌系	ホルモンの特徴
14	内分泌系	ホルモンの種類とその働き
15	生殖	生殖、妊娠と出産
16	成長と老化	成長、老化
17	神経	ニューロンの構造と働き、神経線維の興奮伝導
18	神経	シナプス伝達、中枢神経系の分類と機能、反射
19	神経	脊髄、脳幹、小脳
20	神経	視床、視床下部、大脳
21	神経	脳脊髄液、末梢神経系、自律神経系
22	筋	骨格筋の構造と働き、筋の収縮の仕組み
23	筋	筋のエネルギー供給の仕組み、心筋と平滑筋
24	運動	骨格筋の神経支配、運動の調節
25	運動	錐体路系と錐体外路系

26	運動	発生と言語
27	感覚	感覚の分類と一般的性質、体性感覚、内臓感覚
28	感覚	痛覚、嗅覚、味覚、聴覚、平衡感覚、視覚
29	生体の防御機能	生体の防御機構・免疫反応・生体の適応、恒常性維持
30	身体活動の協調	バイオリズム
31	期末試験前の統括	授業のまとめ
32	総括	テストの振り返りと総まとめを行う

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	東洋医学概論 I		
必修選択	必修	(学則表記)	東洋医学概論 I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年次	学科	鍼灸科 昼間部	6	96
使用教材	新版 東洋医学概論		出版社	医歯薬出版株式会社	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	鍼灸治療の起源である東洋医学の基礎知識を理解する。				
到達目標	東洋医学の基礎的な説明ができるようになる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目	東洋医学概論 II				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	古川 茂、麻生 寿樹	実務経験	○		
実務内容	学校付属鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	東洋医学の基礎理論	東洋医学の起源と発展
2	東洋医学の基礎理論	東洋医学の起源と発展
3	東洋医学の基礎理論	陰陽五行論
4	東洋医学の基礎理論	陰陽五行論
5	東洋医学の基礎理論	陰陽五行論
6	東洋医学の人体の考え方	気血津液

7	東洋医学の人体の考え方	気血津液
8	東洋医学の人体の考え方	気血津液
9	東洋医学の人体の考え方	五臓六腑（臓象）
10	東洋医学の人体の考え方	五臓六腑（臓象）
11	東洋医学の人体の考え方	五臓六腑（臓象）
12	東洋医学の人体の考え方	臓腑経絡論
13	東洋医学の人体の考え方	臓腑経絡論
14	東洋医学の疾病観	病因論
15	東洋医学の疾病観	病因論
16	東洋医学の疾病観	病因論、前期内容のまとめ
17	東洋医学の疾病観	病理と病証
18	東洋医学の疾病観	病理と病証
19	東洋医学の疾病観	病理と病証
20	診断論	四診
21	診断論	四診
22	診断論	四診
23	診断論	証の立て方
24	診断論	証の立て方
25	診断論	証の立て方

26	診断論	証の立て方
27	治療論	証の立て方
28	治療論	総論および原則
29	治療論	治療法
30	治療論	治療法
31	治療論	治療法
32	総括	他の東洋医学療法、後期のまとめ



## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	経絡経穴概論 I		
必修選択	必修	(学則表記)	経絡経穴概論 I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年次	学科	鍼灸科 昼間部	6	96
使用教材	新版 経絡経穴概論		出版社	医道の日本社	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	東洋医学の基礎知識である経絡と経穴の知識を学び、東洋医学に基づく治療の基礎を習得する。				
到達目標	経穴の名称や特徴、取穴部位などの説明ができるようになる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目	経絡経穴概論 II				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	澤田 侑里	実務経験	○		
実務内容	往診専門の治療院、学校附属鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	経絡・経穴の基礎	経絡・経穴の誕生、臓腑の概要
2	経絡・経穴の基礎	臓腑の概要、経絡の概要
3	経絡・経穴の基礎	経穴の概要
4	経絡・経穴の基礎	経穴の概要
5	経脈・経穴	督脈
6	経脈・経穴	督脈

7	経脈・経穴	任脈
8	経脈・経穴	任脈
9	経脈・経穴	手の太陰肺経
10	経脈・経穴	手の太陰肺経、手の陽明大腸経
11	経脈・経穴	手の陽明大腸経
12	経脈・経穴	手の陽明大腸経、足の陽明胃経
13	経脈・経穴	足の陽明胃経
14	経脈・経穴	足の陽明胃経
15	経脈・経穴	足の陽明胃経、足の太陰脾経
16	経脈・経穴	足の太陰脾経、前期のまとめ
17	経脈・経穴	手の少陰心経
18	経脈・経穴	手の少陰心経、手の太陽小腸経
19	経脈・経穴	手の太陽小腸経、足の太陽膀胱経
20	経脈・経穴	足の太陽膀胱経
21	経脈・経穴	足の太陽膀胱経
22	診断論	足の太陽膀胱経
23	診断論	足の太陽膀胱経、足の少陰腎経
24	診断論	足の少陰腎経
25	診断論	足の少陰腎経、手の厥陰心包経

26	診断論	手の厥陰心包経
27	治療論	手の少陽三焦経
28	治療論	手の少陽三焦経
29	治療論	足の少陽胆経
30	治療論	足の少陽胆経
31	治療論	足の少陽胆経、足の厥陰肝経
32	総括	足の厥陰肝経、後期のまとめ

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	はりきゅう理論		
必修選択	必修	(学則表記)	はりきゅう理論		
開講				単位数	時間数
年次	1 年次	学科	鍼灸科 昼間部	2	32
使用教材	はりきゅう理論		出版社	医道の日本社	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	鍼や灸に関する治療用具としての基礎知識を学ぶ。 鍼灸の治効理論や身体に及ぼす影響を理解し、鍼灸施術の安全性に関する知識を高める。				
到達目標	鍼や灸に関する治療用具についての基礎知識、安全性に関する知識を説明することができる。 鍼灸の治効理論、生体への影響について説明することができる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目	基礎はりきゅう実技				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	加藤 竜司	実務経験	○		
実務内容	ワロン鍼灸治療院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	概論	鍼灸治療の意義、鍼灸治療の特徴
2	鍼の基礎知識	鍼と鍼管、古代九鍼
3	刺鍼の方式と術式	刺鍼の方式、刺鍼の術式
4	特殊鍼法	小児鍼、皮内鍼、円皮鍼 灸頭鍼、低周波鍼通電療法
5	灸の基礎知識	灸の材料、線香
6	灸術の種類	有痕灸、無痕灸

7	鍼灸の臨床応用	刺激量、感受性 鍼灸療法の適応症 鍼灸療法の禁忌
8	リスク管理	リスク管理の基本 鍼灸療法の過誤と副作用 灸療法の過誤と副作用
9	リスク管理	感染症対策、痛み感覚の受容と伝導
10	鍼灸治効の基礎	温度感覚の受容と伝導、触圧感覚の受容と伝達
11	鍼灸治効の基礎	筋の伸張刺激および筋の振動の受容と伝達、鍼灸刺激と反射
12	鍼灸治効の基礎	鍼鎮痛、刺激と反応
13	鍼灸療法の一般治効理論	自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響、生体防御機能に及ぼす鍼灸刺激の影響、鍼灸刺激と神経系・ 内分泌系・免疫系の相互作用
14	関連学説	サイバネティックスの作用 ホメオスターシス,汎適応症候群の学説（ストレス学説）
15	関連学説	過剰刺激症候群の学説（レイリー現象） 圧発汗反射の学説
16	総括	授業のまとめ、試験振り返り

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	生体観察		
必修選択	必修	(学則表記)	生体観察		
開講				単位数	時間数
年次	1 年次	学科	鍼灸科 昼間部	2	32
使用教材	ポディーナビゲーション 触ってわかる身体解剖		出版社	医道の日本	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	人体の構造を知る。骨の構造を理解する。筋肉について起始、停止、作用を理解する。 経穴取穴や鍼灸施術を行う上での指標を確認する。				
到達目標	骨の構造を説明できる。 筋肉の起始、停止、作用を説明できる。 経穴取穴や鍼灸施術を行う上での指標が確認できる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	亀山 千慧	実務経験	○		
実務内容	株式会社 Y's twin にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 触察方法の確認	授業の流れ、到達目標について 触察で使用する部位、圧の入れ方など
2	下腿と足を構成する骨の構造の確認と触察	下腿、足を構成する骨、足関節の触察
3	下腿と足を構成する筋の構造の確認と触察	下腿、足に存在する筋・腱などの触察
4	大腿部・股関節・臀部を構成する骨の構造の確認と触察	大腿骨、骨盤を構成する骨、股関節の触察
5	大腿部・股関節・臀部を構成する筋の構造の確認と触察	大腿部、臀部に存在する筋・腱などの触察

6	上腕・肩甲帯を構成する骨の構造の確認と触察	上腕骨、肩甲骨、肩関節などの触察
7	上腕・肩甲帯を構成する筋の構造の確認と触察	上腕、肩甲帯に存在する筋などの触察
8	前腕・手を構成する骨の構造の確認と触察	前腕、手を構成する骨などの触察
9	前腕・手を構成する筋の構造の確認と触察	前腕、手に存在する筋などの触察
10	体幹背部を構成する骨の構造の確認と触察	脊柱を構成する骨などの触察
11	体幹背部を構成する筋の構造の確認と触察	体幹背部に存在する筋などの触察
12	体幹腹部を構成する骨の構造の確認と触察	体幹前面に存在する骨などの触察
13	体幹腹部を構成する筋の構造の確認と触察	体幹前面に存在する筋などの触察
14	頭頸部を構成する骨の構造の確認と触察	頭頸部を構成する骨などの触察
15	頭頸部を構成する筋の構造の確認と触察	頭頸部を構成する筋などの触察
16	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	基礎はりきゅう実技		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎はりきゅう実技		
開講				単位数	時間数
年次	1 年次	学科	鍼灸科 昼間部		128
使用教材	はりきゅう実技 (基礎編)		出版社	医道の日本社	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	鍼灸の基礎動作を反復練習し、基本の技術を修得する。 消毒法を学び、衛生に関する知識と消毒の手順を修得する。				
到達目標	正確な取穴ができる。鍼の角度や深度を目的に沿って調節できる。艾の燃焼度合いや硬さ目的に沿って調節できる。手指や施術部位の適切な消毒ができる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目	応用はりきゅう実技、臨床はりきゅう実技				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	西川 隆一、富永 敦	実務経験	○		
実務内容	自身の鍼灸院と学校附属鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	消毒法、鍼の基本実技、灸の基本実技、自分の身体への施術	オリエンテーション、鍼の説明、灸の説明
2	消毒法、鍼の基本実技、灸の基本実技、自分の身体への施術	刺鍼の基本手技の説明、押手・切皮・両手挿管の練習 伊吹艾の製造方法、米粒大～半米粒大の練習
3	消毒法、鍼の基本実技、灸の基本実技、自分の身体への施術	揉捻法の説明・練習、刺鍼の流れの説明・練習 片手挿管の説明・練習、鍼の長さ、太さの説明、片手挿管の練習
4	消毒法、鍼の基本実技、灸の基本実技、自分の身体への施術	知熱灸・手技の説明、線香に着火した状態で、米粒大、半米粒大の練習、衛生操作の説明、実践 知熱灸の説明を行い、5分灸・7分灸の練習、直刺・斜刺・横刺の説明、直刺・斜刺・横刺の練習
5	消毒法、鍼の基本実技、灸の基本実技、自分の身体への施術	線香に着火した状態で米粒大・半米粒大の7分灸の練習、実技室にて自身の踵に7分灸 片手挿管の練習、直刺・斜刺・横刺の練習、自身に刺鍼、足三里に直刺・豊隆に斜刺



6	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	米粒大・半米粒大（燃やし切り）、7分灸の練習（施灸板） 自身の大都・水泉・三陰交の取穴、7分灸を行う。片手挿管、直刺、斜刺、横刺の練習、自身への刺鍼
7	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	半米粒大・7分灸の練習（施灸板）、自身に7分重ね灸 相手の失眠に7分重ね灸、片手挿管の練習、自身に刺鍼、相手に刺鍼
8	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、大椎、身柱に7分で重ね 片手挿管の練習、自身へ刺鍼…直刺、斜刺、横刺、相手に刺鍼…直刺
9	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、陶道・神道に7分重ね灸 片手挿管の練習、自身へ刺鍼…直刺、斜刺、横刺、相手に刺鍼…直刺
10	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、靈台・至陽・筋縮に7分重ね灸 片手挿管の練習、相手に刺鍼…直刺（上腕・建里・尺沢）
11	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、懸枢・脊中・中枢に7分重ね灸 片手挿管の練習、相手に刺鍼…直刺（陰交・関元）、斜刺（天府・俠白）
12	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、命門・腰陽関に7分重ね灸 片手挿管の練習、相手に刺鍼…直刺（太淵・孔最）、斜刺（雲門・肩髃）
13	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、経渠・列欠・魚際に7分重ね灸 中間試験練習
14	試験練習	中間試験練習、中間試験の結果をもとにフィードバック
15	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	中間試験の結果をもとにフィードバック、片手挿管の練習 相手に刺鍼…直刺（中府・魚際・陽溪）、横刺（列欠）
16	試験練習	前期末試験練習
17	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	前期末試験の結果をもとにフィードバック、施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、二間・三間・天枢・犢鼻に7分重ね灸
18	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、雀啄術の練習、相手に刺鍼…直刺（手三里・肘膠・梁門）、横刺（偏歴）施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、関門・太乙・下廉・上廉・足三里に7分重ね灸
19	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、雀啄術の練習、相手に刺鍼…直刺（手五里・臂臑・巨骨・承満）、横刺（温溜） 施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、陰市・大都・太白・神門に7分重ね灸
20	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、旋撚術の練習、相手に刺鍼…直刺（上巨虚・条口・下巨虚）、横刺（大横・血海） 施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、三陰交・通里・陰郄・前谷・足通谷に7分重ね灸
21	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、雀啄術・旋撚術の練習、相手に刺鍼…直刺（豊隆・解溪・衝陽・陰陵泉）、横刺（腹哀） 施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、公孫・商丘・漏谷・地機・靈道に7分重ね灸
22	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、雀啄術・旋撚術・間歇術の練習、相手に刺鍼…直刺（少海・小海・天宗・臑俞・天柱・大杼） 天宗のみ間歇術、施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、養老・支正・秉風・風門・肺俞に7分重ね灸

23	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、雀啄術・旋撚術の練習、相手に刺鍼…直刺（太溪、委中、合陽、承山、崑崙） 施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、厥陰俞、心俞、附分、魄戶、膏肓、神堂に7分重ね灸
24	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、雀啄術・旋撚術・間歇術の練習、相手に刺鍼…直刺（曲垣・肩中俞・肩外俞、 天宗）斜刺（風門）施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、僕参、至陰、大鍾、水泉、照 海、大陵に7分重ね灸
25	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、雀啄術・旋撚術・刺鍼転向法の練習、相手に刺鍼…直刺（承筋・飛揚）内下方 斜刺（督俞、膈俞、肝俞）、施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、然谷、復溜、交信、間 使、内関に7分重ね灸
26	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、雀啄術・旋撚術・刺鍼転向法の練習、相手に刺鍼…直刺（浮郄・委陽）、内下方 斜刺（胆俞・脾俞・胃俞）、施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、中渚・陽池・外関・支 溝・会宗に7分重ね灸
27	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、雀啄術・旋撚術・刺鍼転向法の練習、相手に刺鍼…直刺（腎俞・気海俞・大腸 俞・附陽）、内下方斜刺（三焦俞）、施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、7分重ね灸
28	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、相手に刺鍼…直刺（陰谷・築賓・金門・曲沢・郄門）、内下方斜刺（肺俞：反対 側で取穴）、施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、取穴のみ…消灑 四瀆・天井・地五会・ 侠溪に7分重ね灸
29	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、屋漏術の練習、相手に刺鍼…直刺（肩髃・天髃・太衝）、内下方斜刺（膈俞・脾 俞：反対側で取穴）施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、中都、膝関、懸鐘、丘墟、足 臨泣に7分重ね灸
30	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、屋漏術の練習、相手に刺鍼…直刺（曲泉・中封・陽陵泉・蠡溝）、内下方斜刺 （腎俞・大腸俞：反対側で取穴）、施灸板に半米粒大の練習、失眠・膝陽関・陽交・外丘・光明・ 陽輔に7分重ね灸
31	練習	期末試験前練習日
32	総括	期末試験のフィードバック

## シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	臨床実習 I		
必修選択	必修	(学則表記)	臨床実習 I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年次	学科	鍼灸科 昼間部	1	45
使用教材				出版社	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	鍼灸院で見学実習を行い、鍼灸師やスポーツトレーナーとしての心構えや実際の業務について学ぶ。				
到達目標	鍼灸師・スポーツの実際の業務について説明できる。				
評価基準	実習への参加姿勢や実習参加日数、提出レポート等を考慮して決定する。				
認定条件	出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 成績評価が 3 以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目	臨床実習 II、臨床実習 III				
備考					
担当教員	富永 敦	実務経験	○		
実務内容	明治国際医療大学大学院附属鍼灸センター、学校附属鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります